



由布院温泉観光協会会長
桑野 和泉



私たちの一日は、美しく雄大な
由布岳を仰ぎ観ることから始まります



「野焼き」
新たな息吹がもうすぐ聞こえてくる



静けさの空に、
暮らしが感じられる佇まい

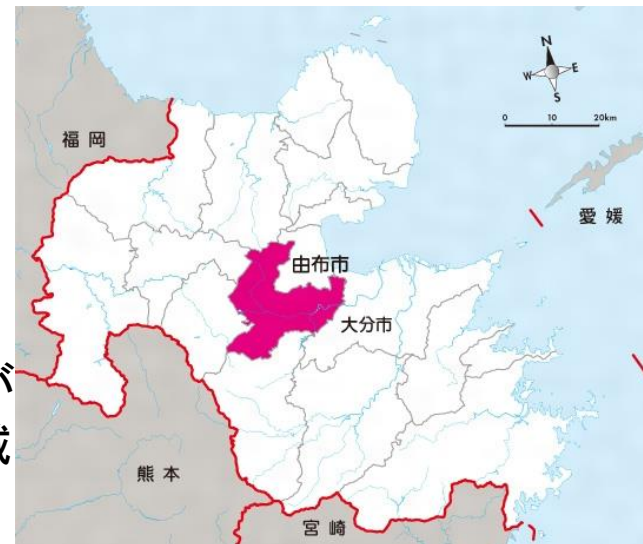


やさしい陽射し、里に訪れる春。

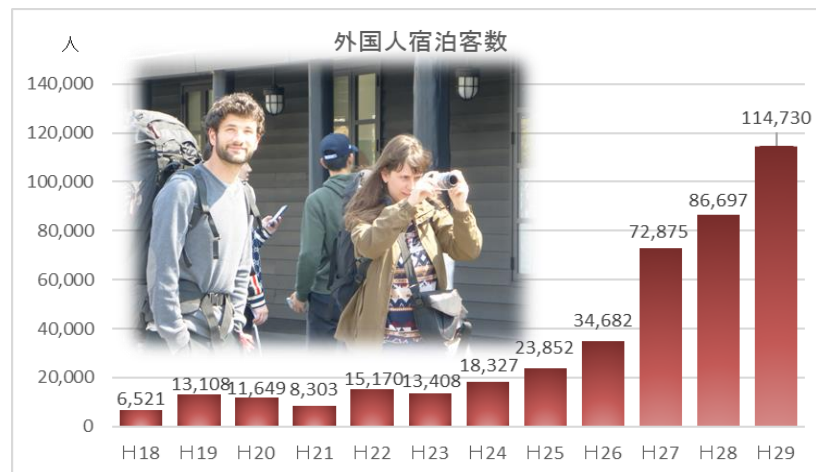


<地域の概況>

- ・由布市(ゆふし)は、大分県のほぼ中央に位置し、北に由布岳、南に黒岳など標高1000m級の山々が連なる、豊かな自然に囲まれた小都市。一部地域は「阿蘇くじゅう国立公園」に指定されている。
- ・2005年10月1日に湯布院町、挾間町、庄内町が合併し、現在の由布市を形成。旧湯布院町を中核とした観光都市であると共に、隣の大分市のベッドタウンという異なる性格を併せ持つ。
- ・主な産業は、医療・介護等、公務、不動産、建設、宿泊業の5つで、中でも宿泊業の割合は他都市と比べて高く、由布市の特徴的な産業である。
- ・行ってみたい(あこがれ)温泉地ランキングで12年連続1位を獲得するなど国内有数の温泉地である「由布院」、鎌倉時代が開祖と言われ湯治場として栄えた「湯平」、強酸性泉が特徴の「塚原」で構成される豊かな温泉群は、「国民保養温泉地」にも指定されている。
- ・「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づく国立公園満喫プロジェクトにおいて「阿蘇くじゅう国立公園」が選定されたことを機に、「国立公園ステップアッププログラム2020」に関する取り組みはもちろん、九州観光の拠点の一つとして他の周辺エリアとも連携を進めながら国内外からの誘客を促進している。

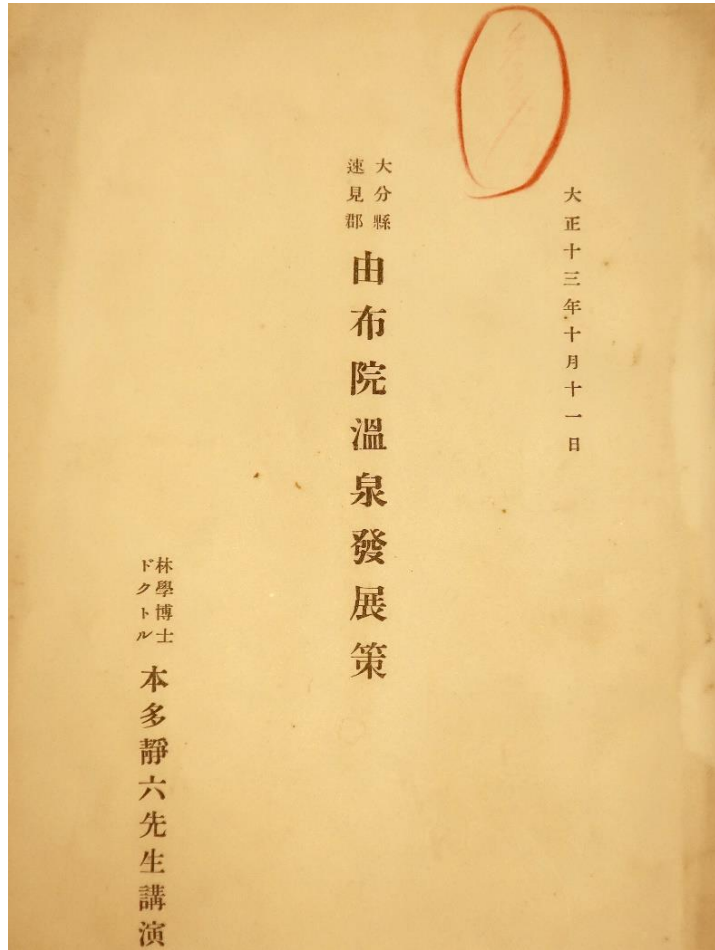


<地域の観光現況・課題>



- ・昭和30年代後半より生活保養温泉地を目指した取組みが行われ、現在では約380万人もの観光客が訪れる日本有数の温泉観光地となっている。
- ・外国人観光客も平成17年は約4.6万人だったが、平成29年には約47.5万人に増加し、この12年間で約10倍に増加。
- ・外国人宿泊客数も平成18年の約7千人から平成29年の約11.5万人に増加し、この12年間で約18倍に増加。
- ・由布院への鉄道アクセスは、博多-別府間を結ぶJR特急ゆふいんの森号により乗り入れが主流。その他、国道210号や、由布岳・別府に抜ける県道216号、県道11号(やまなみハイウェイ)等の幹線道路がまちの周囲を走り、広域交通アクセスを担保。
- ・一方まちなかは、観光車両の増加により交通渋滞が激化し、地域住民の生活や緊急車両の通行に支障をきたしている。また、歩行者の安全性低下や生活環境が悪化し、まち並み景観にも悪影響を与えている。

由布院温泉発展策



滞在型保養温泉地

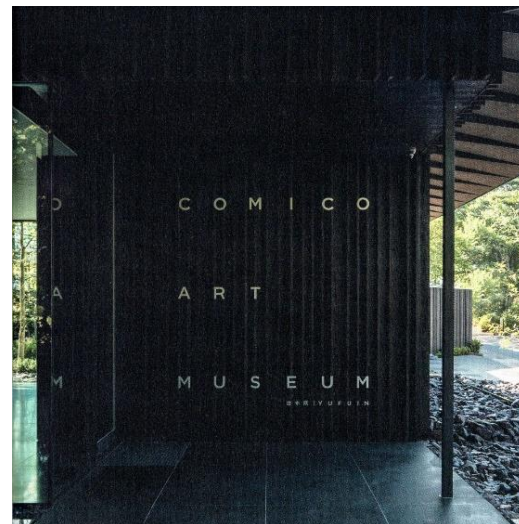
出会うの場として 1



- 牛喰い絶叫大会
- 湯布院映画祭
- ゆふいん文化・記録映画祭
- ゆふいん子ども音楽祭
- ゆふいん十月祭・食文化フェア
- ゆふいん音楽祭



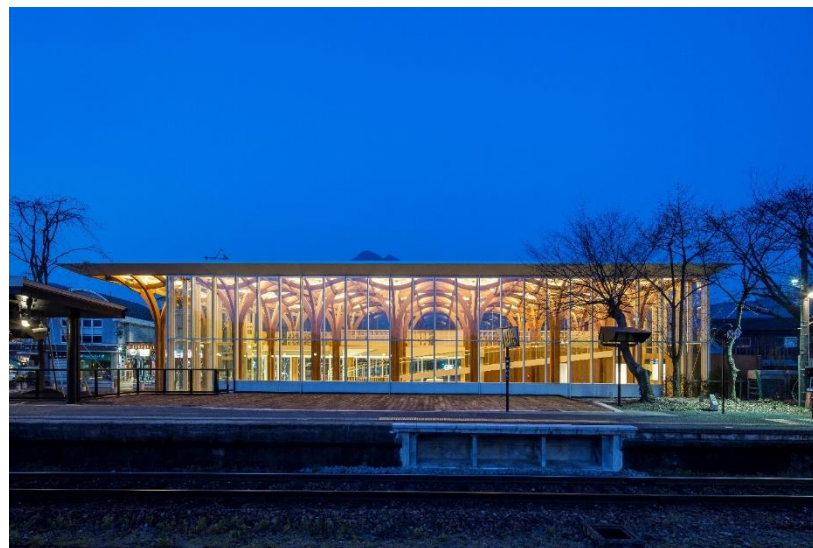
滞在型保養地 出会いの場として 2



© NHN JAPAN Corp.



滞在型保養温泉地 出会いの場として 3



滞在型保養温泉地 ～由布院の食卓 生産者とともに～



誰もが楽しめるまちを目指して～グリーンスローモビリティ







